

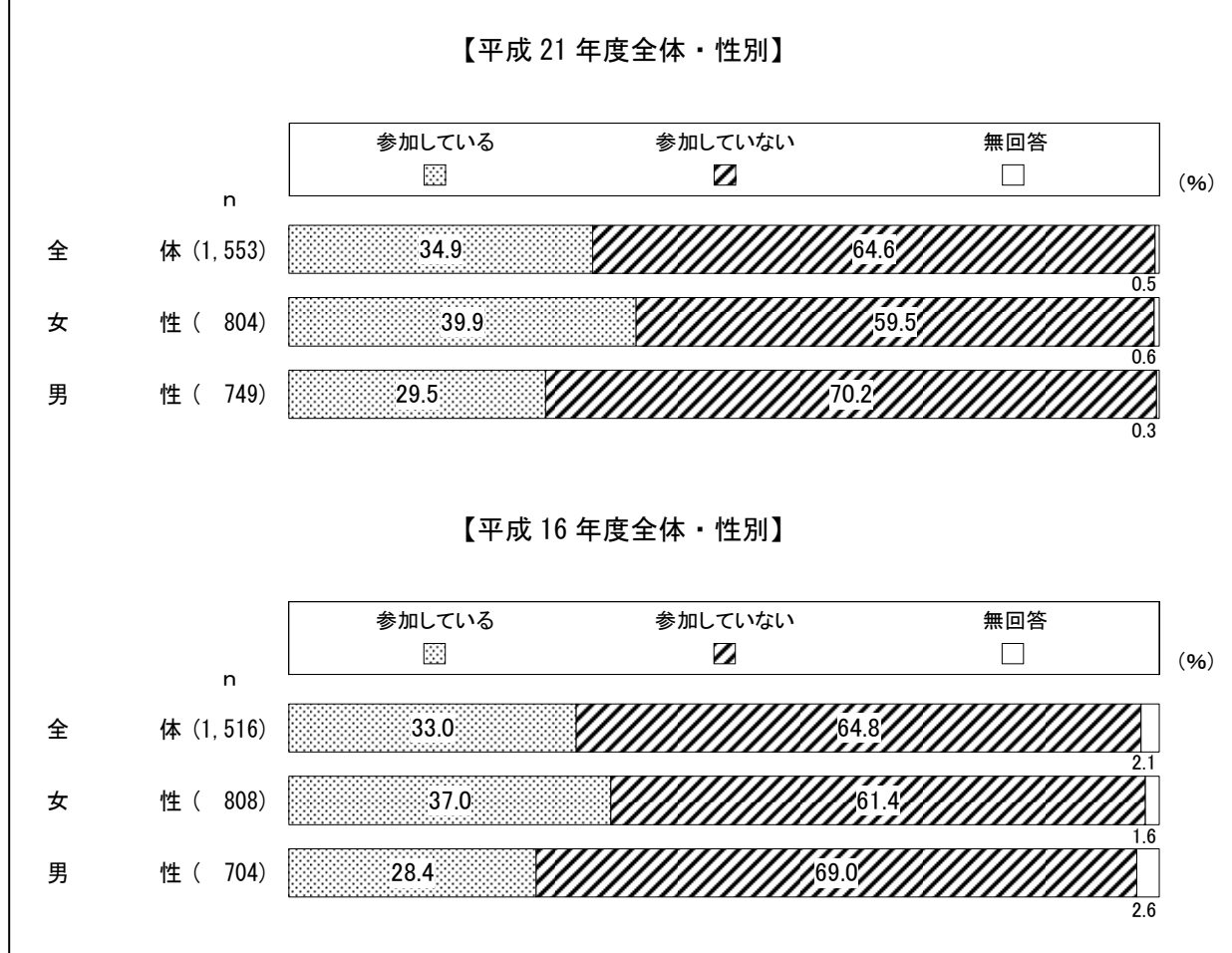
第6章 社会参加・参画

6-1 グループ・団体への参加状況

◎女性の参加率は39.9%、40代以降では4割を超える。

問23 あなたは、日常的に交流の持てるグループやサークル、団体などの、自主的な活動に参加していますか。(○は1つだけ)

図6-1-1 グループ・団体への参加状況(全体・性別)



日常的な交流の持てるグループやサークル、団体などへ「参加している」人は34.9%、「参加していない」人が64.6%と多数を占めている。(図6-1-1)

【性別】

男女別の参加状況では、女性39.9%、男性29.5%と、女性の方が参加率は高い。

(図6-1-1)

【過年度比較】

平成16年度とほぼ同じ傾向となっている。(図6-1-1)

【性・年代別】

女性の参加率をみると、40代以降で4割以上となっている。

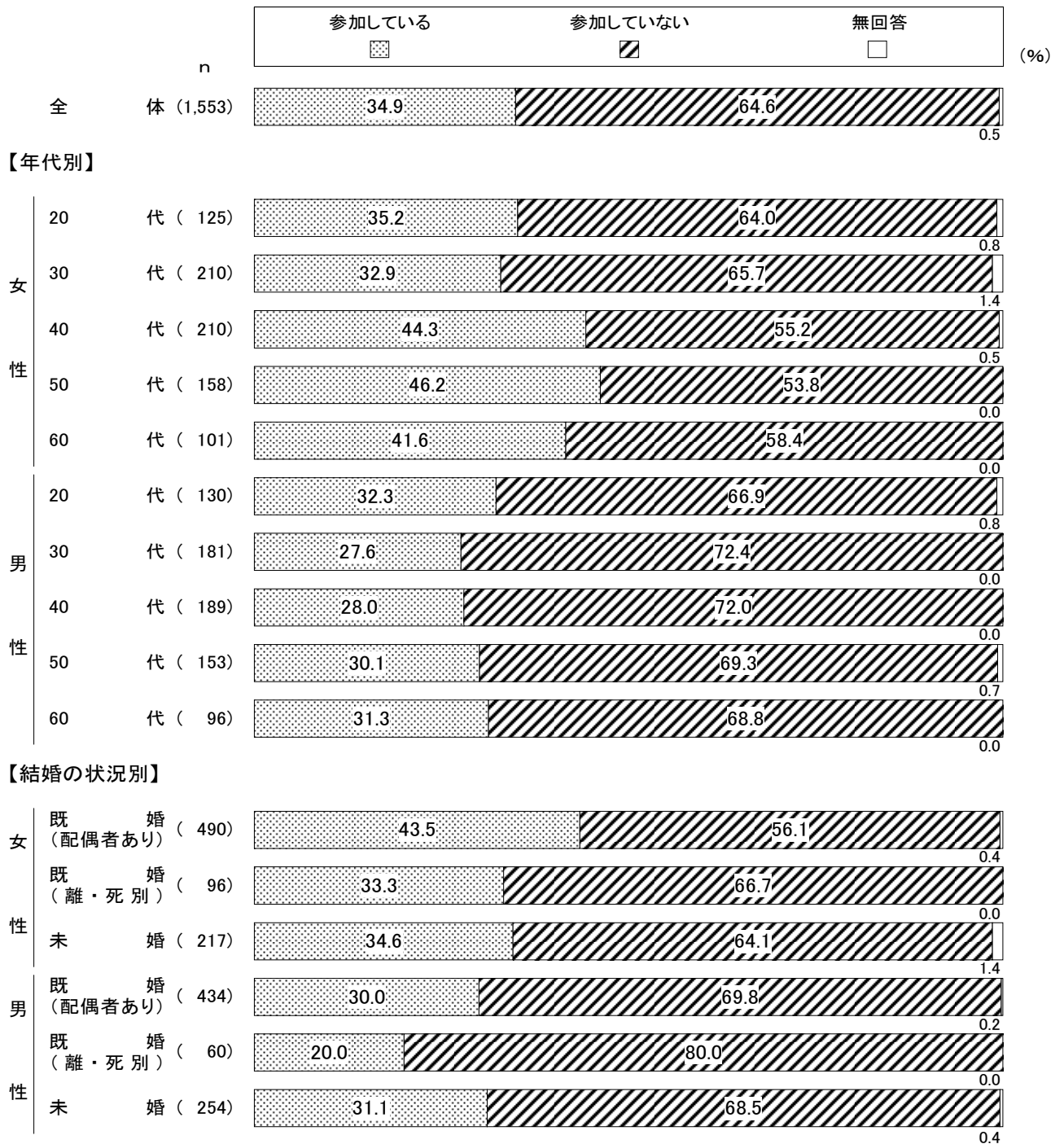
男性では、20代の参加率は3割あるものの、30代では2割台と最も低くなっている。40代以降は回復するものの、女性の同年代に比べると低い割合にとどまっている。(図6-1-2)

【結婚状況別】

女性では、既婚（配偶者あり）の参加率が43.5%と高くなっている。

男性では、既婚（配偶者あり）と未婚で3割となっている。(図6-1-2)

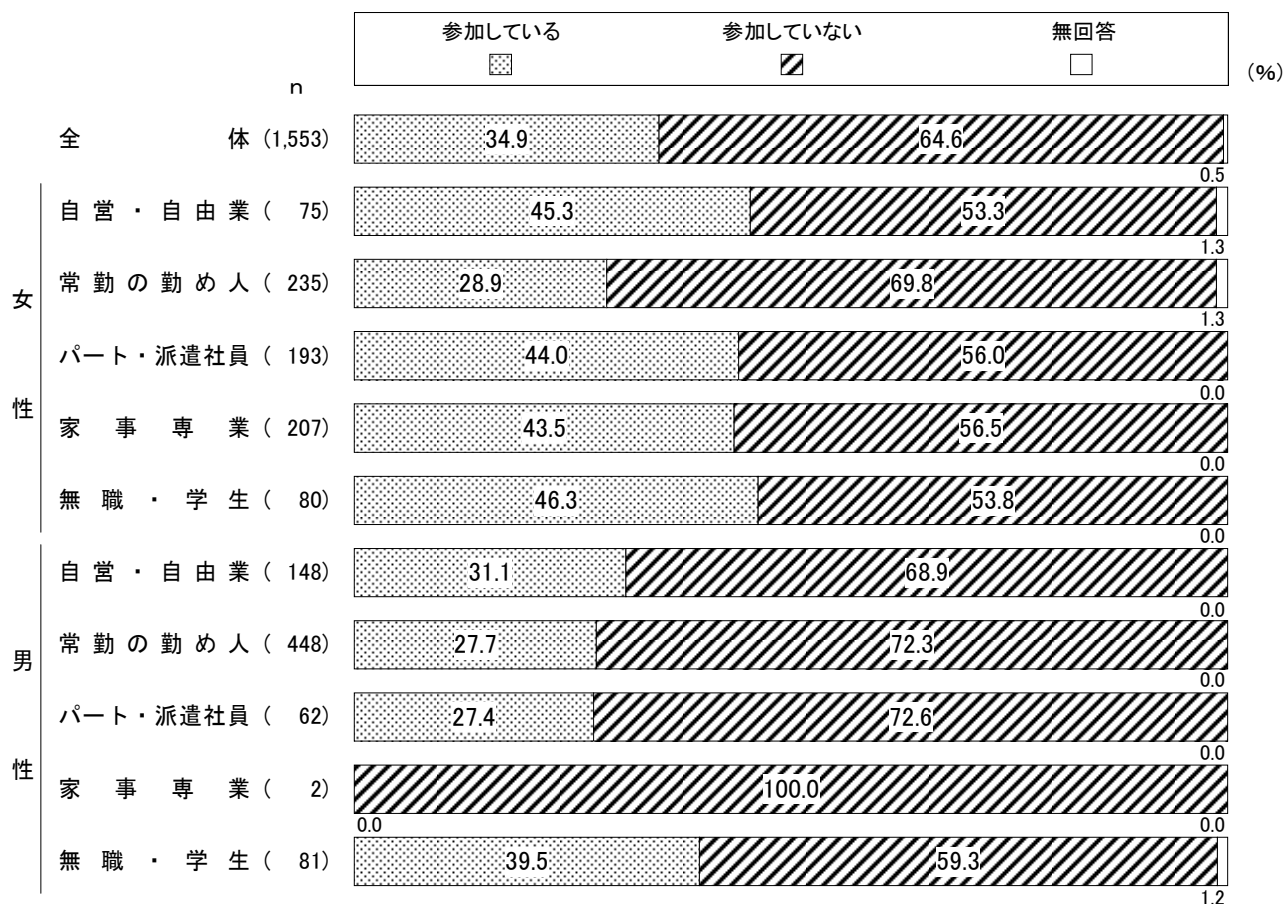
図6-1-2 グループ・団体への参加状況（性・年代別、結婚状況別）



【職業別】

職業別に参加状況を見ると、男女ともに「常勤の勤め人」における参加率が3割以下と低いのが特徴である。(図6-1-3)

図6-1-3 グループ・団体への参加状況（職業別）



6-2 活動内容

◎スポーツ活動と趣味的活動に集中している。

(問23で「1. 参加している」とお答えの方に)

問23-1 参加されているのは、どのような活動内容ですか。(〇はあてはまるものすべて)

図6-2-1 活動内容(全体・性別-平成21年度)

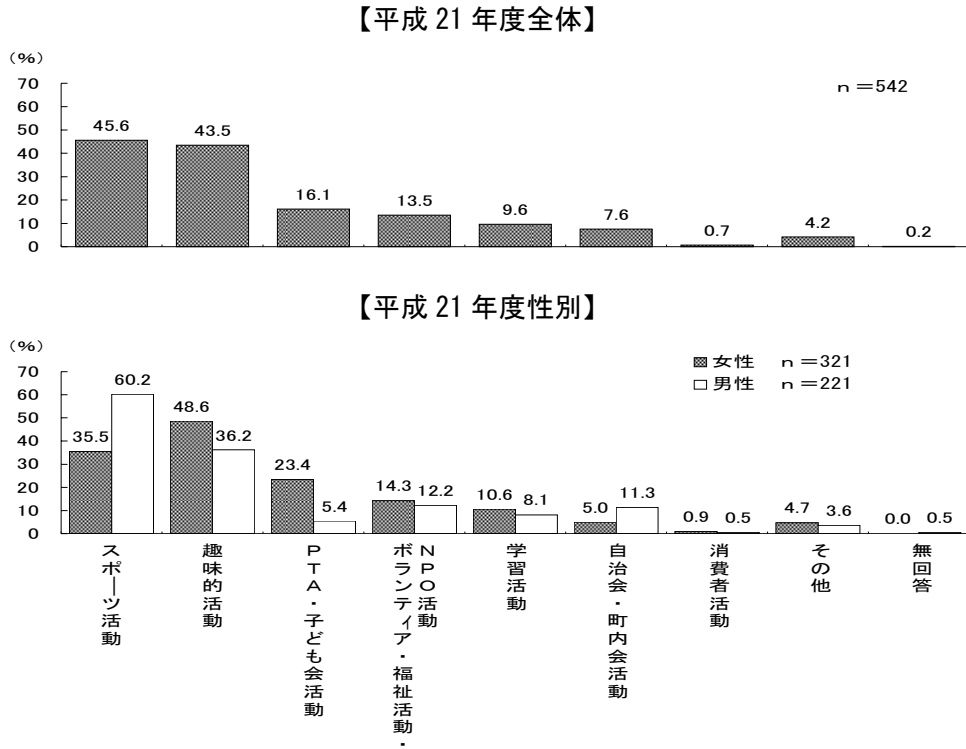
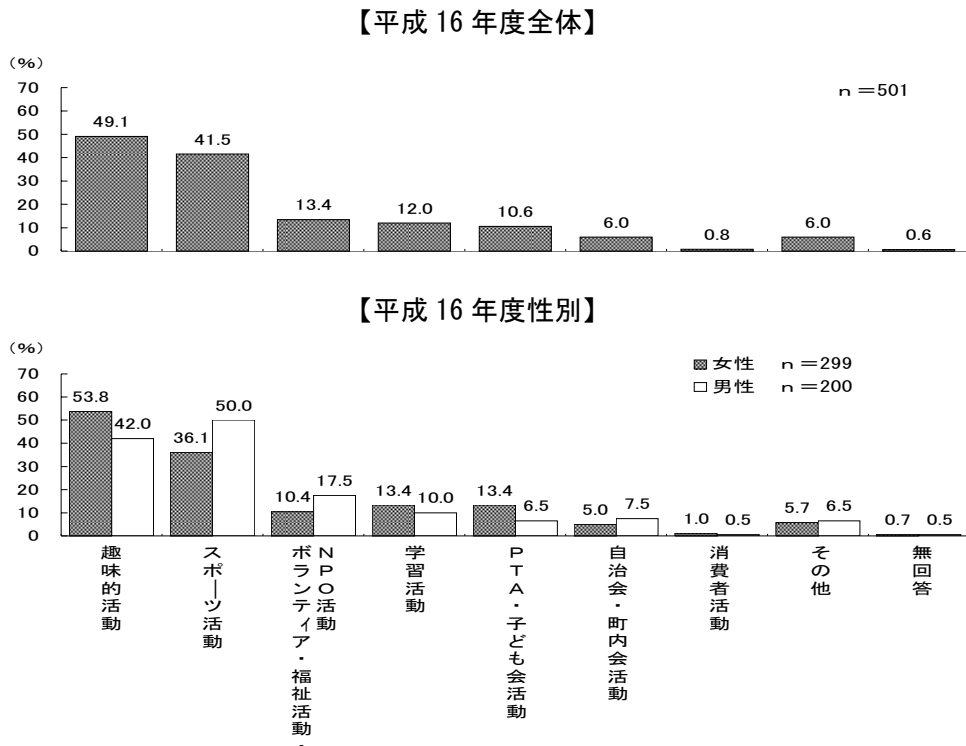


図6-2-2 活動内容(全体・性別-平成16年度)



参加している人の活動内容をみると、「スポーツ活動」(45.6%)と「趣味的活動」(43.5%)に集中している。他の活動はいずれも2割に満たず、「PTA・子ども会活動」(16.1%)、「ボランティア・福祉活動・NPO活動」(13.5%)は1割台、「学習活動」(9.6%)、「自治会・町内会活動」は7.6%とごく少数である。(図6-2-1)

【性別】

性別で見ると、「スポーツ活動」は男性で(女性35.5%、男性60.2%)多く、「趣味的活動」は女性で(女性48.6%、男性36.2%)多くなっている。「PTA・子ども会活動」は女性で(女性23.4%、男性5.4%)多くなっている。(図6-2-1)

【過年度比較】

女性では「PTA・子ども会活動」が平成16年度13.4%から23.4%と増加している。
男性では「スポーツ活動」が50.0%から60.2%と増加している。(図6-2-2)

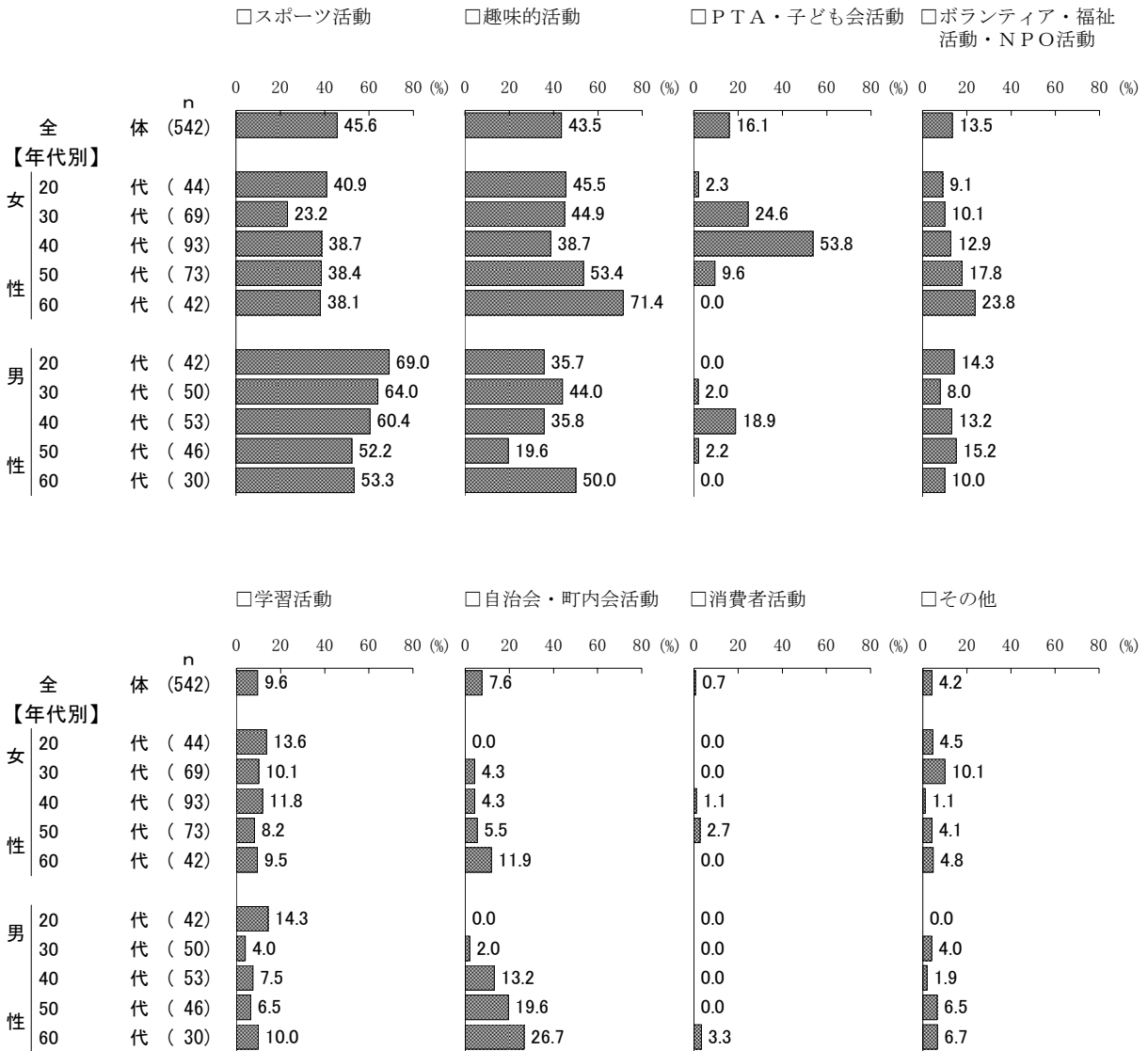
【性・年代別】

「趣味的活動」は女性の50代・60代で多くなっている。また、「PTA・子ども会活動」は女性の40代で5割台、30代でも2割台と多くなっている。

「スポーツ活動」は男性では若年層で特に割合が高く、20代で69.0%と多くなっている。

(図6-2-3)

図6-2-3 活動内容（性・年代別）



6-3 参加していない理由

◎「時間に余裕がないから」が56.3%で圧倒的に多い。

(問23で「2. 参加していない」とお答えの方に)

問23-2 参加されていないのは、どのような理由からですか。(○は3つまで)

図6-3-1 参加していない理由(全体・性別-平成21年度)

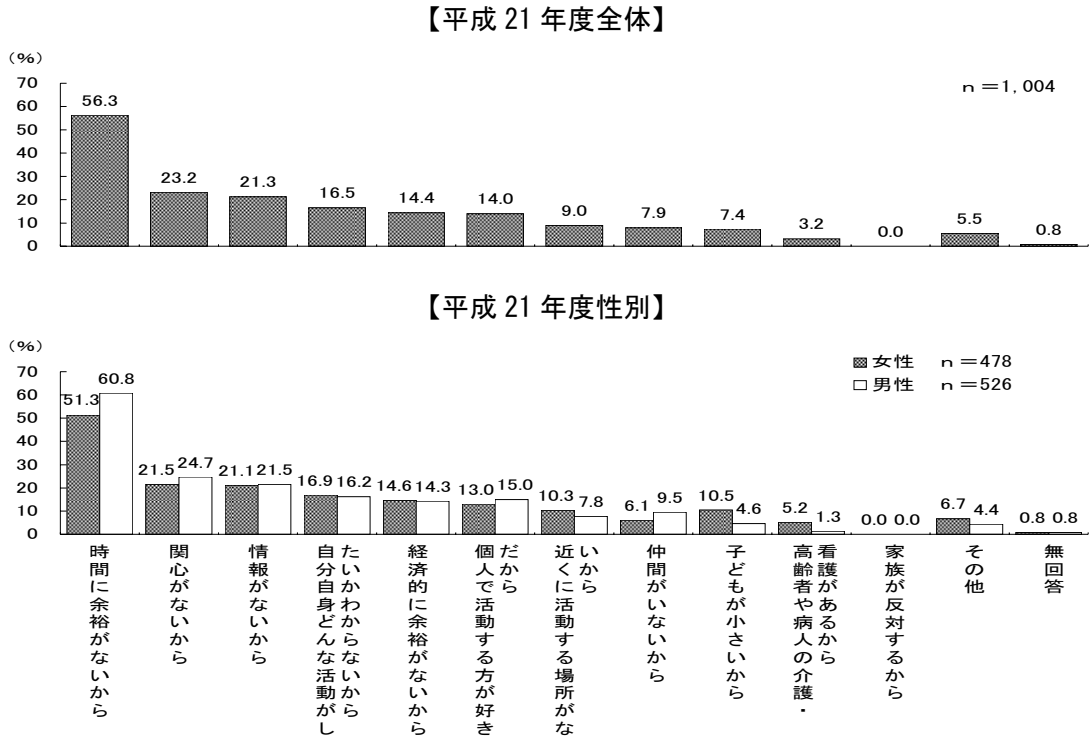
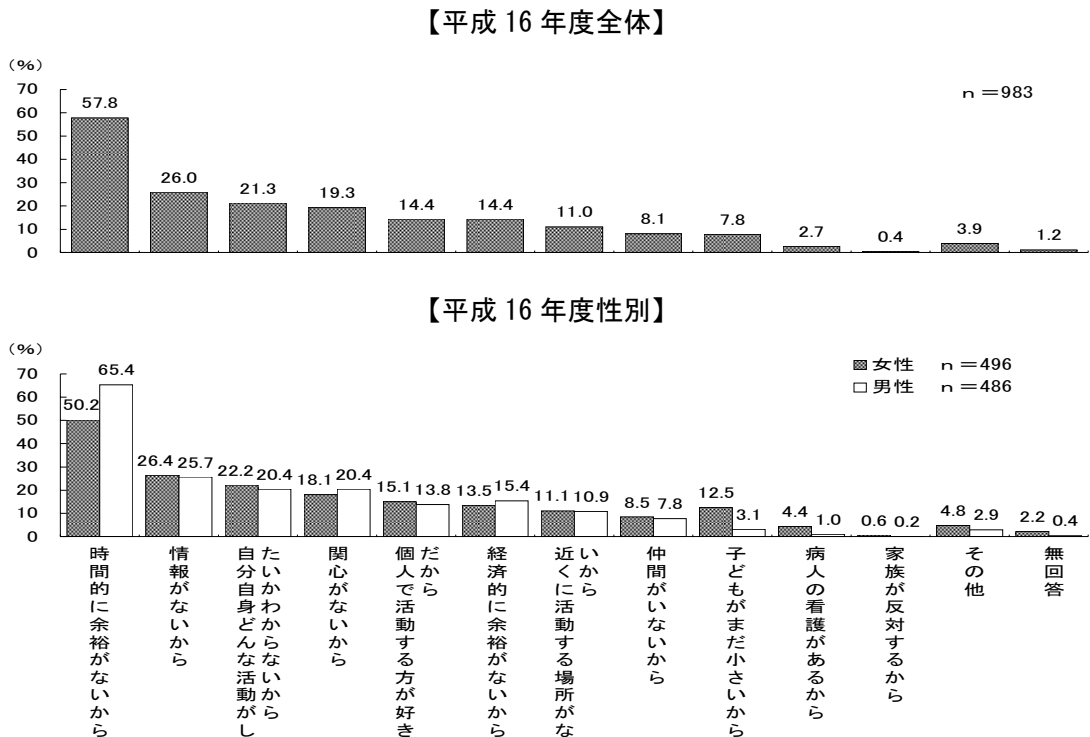


図6-3-2 参加していない理由(全体・性別-平成16年度)



また、現在自主的な活動に参加していない人にその理由をたずねたところ、「時間に余裕がないから」が56.3%と圧倒的に多く、「関心がないから」(23.2%)、「情報がないから」(21.3%)と続いている。(図6-3-1)

【性別】

性別で見ても多くの項目で共通しているが、女性では「子どもが小さいから」、男性では「時間に余裕がないから」が多くなっている。(図6-3-1)

【過年度比較】

「情報がないから」と「自分自身どんな活動がしたいかわからないから」で減少している。

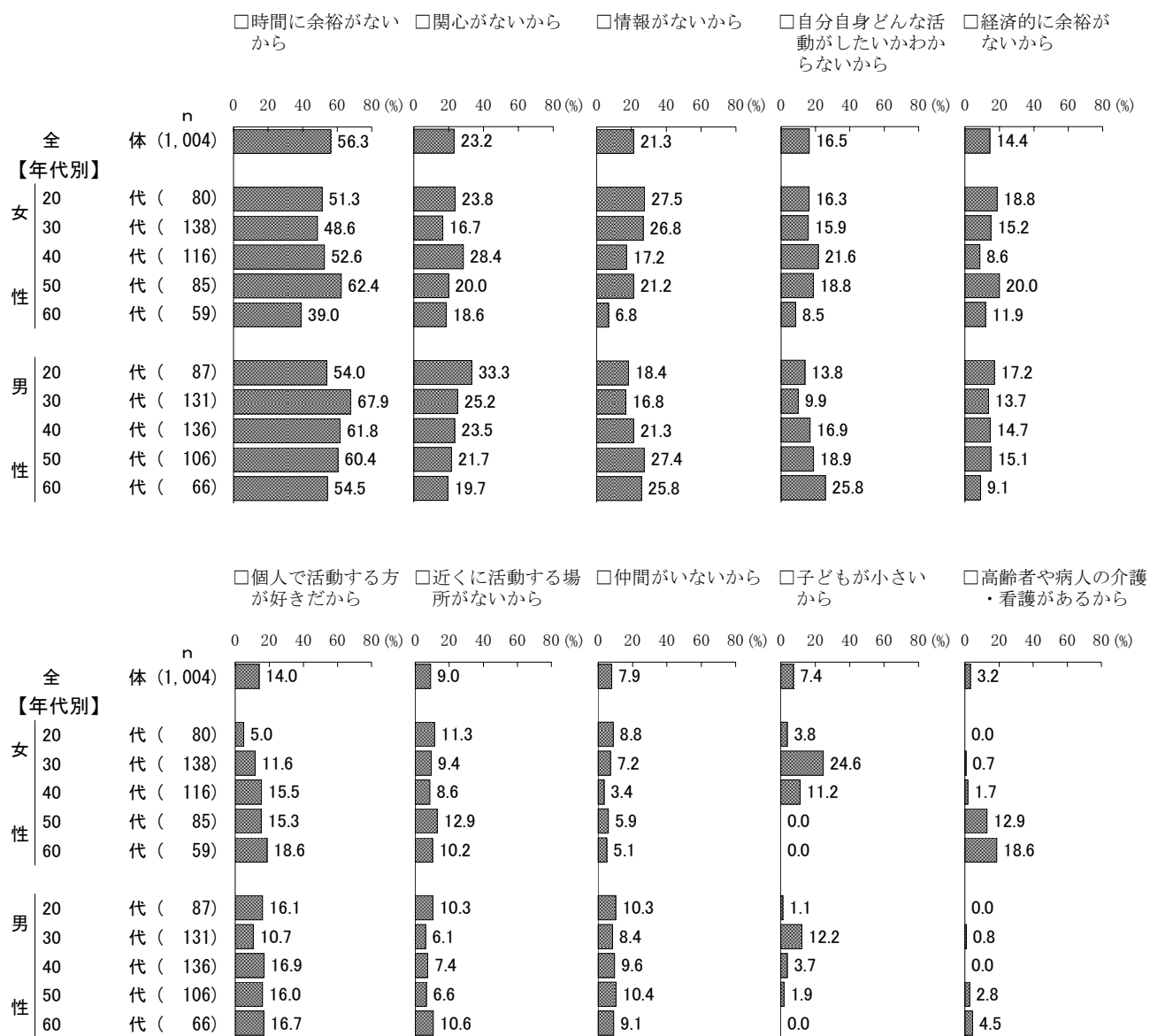
(図6-3-2)

【性・年代別】

性・年代を問わずいずれも「時間に余裕がないから」が最も多くなっているが、「子どもが小さいから」は女性の30代で2割半ばと突出しているなど、各世代の特徴がうかがえる。

(図6-3-3)

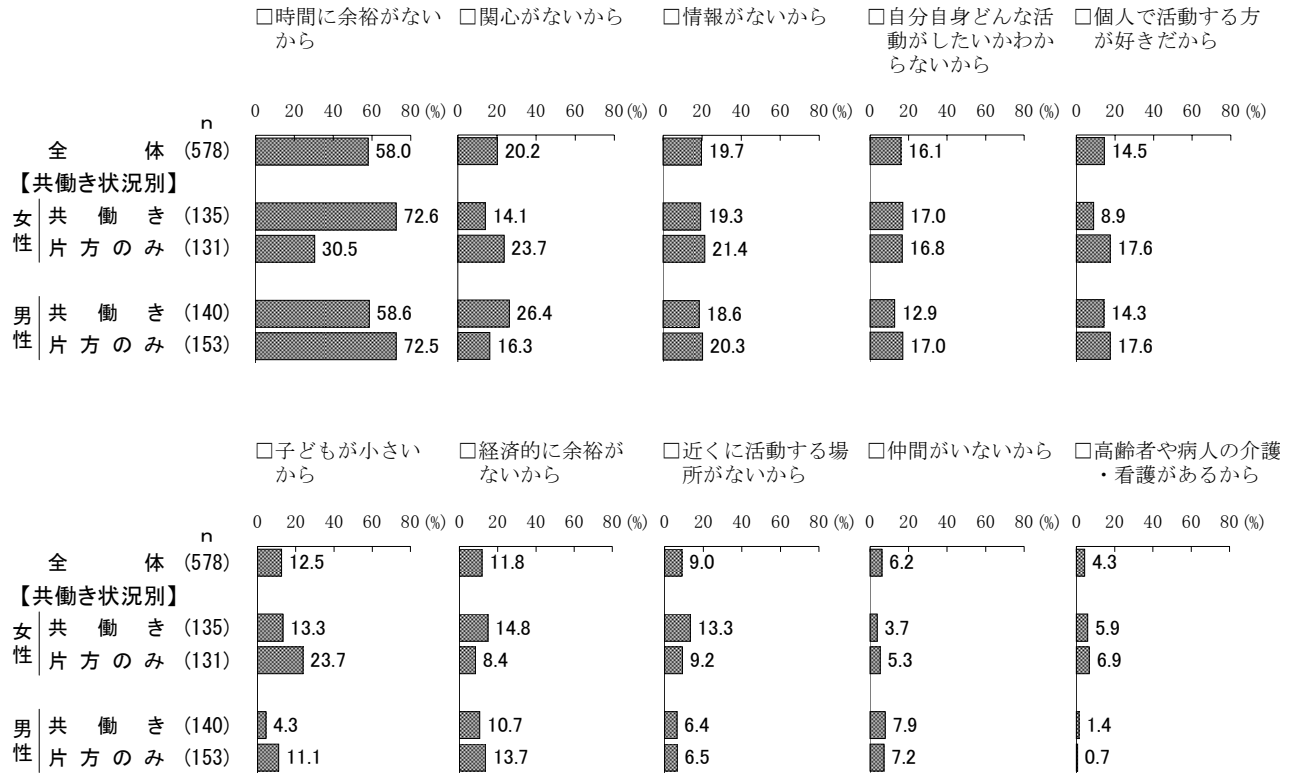
図6-3-3 参加していない理由（上位10位）（性・年代別）



【共働き状況別】

男女ともに共働きでは「時間に余裕がないから」という理由が特に多く、女性で7割、男性で6割近くとなっており、現実問題として就労・家庭・社会参加を両立させることの難しさを物語っているといえよう。(図6-3-4)

図6-3-4 参加していない理由（上位10位）（共働き状況別）



第7章 「男女共同参画センター“らぷらす”」について

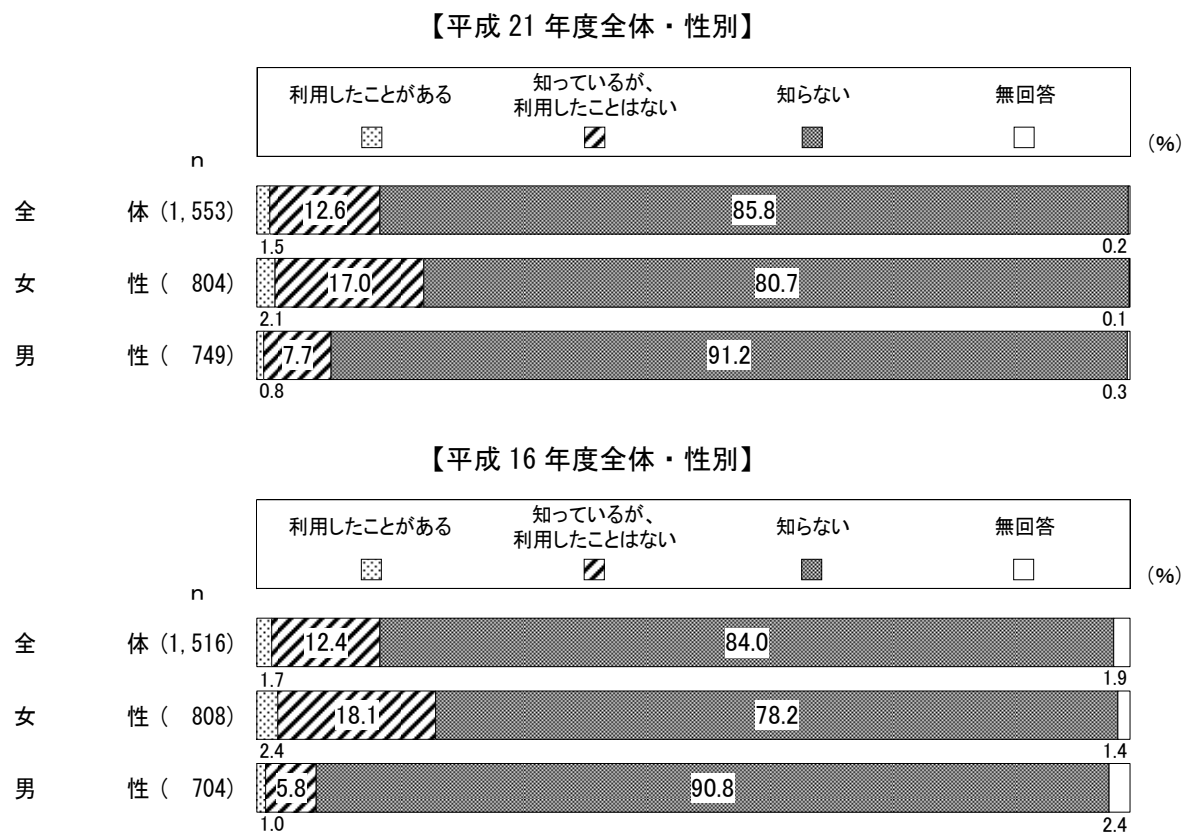
7-1 “らぷらす”の認知

◎「知らない」が8割半ばを占める。

§ 世田谷区には、男女共同参画社会実現のための拠点施設として、いろいろな講座や催し物、相談、資料収集などの事業を行っている『男女共同参画センター“らぷらす”』という施設が、下北沢の北沢タウンホールの中にあります。§

問24 あなたは、『男女共同参画センター“らぷらす”』をご存知ですか。(○は1つだけ)

図7-1-1 “らぷらす”の認知(全体・性別)



“らぷらす”については、「利用したことがある」は1.5%と少数にとどまり、「知っているが、利用したことはない」が12.6%、「知らない」が85.8%と多数を占めている。

(図7-1-1)

【性別】

性別でみると、女性では「知っているが、利用したことはない」が17.0%と2割近くを占め、男性(7.7%)よりは認知状況がよくなっている。一方、男性では「知らない」が91.2%と9割に達している。(図7-1-1)

【過年度比較】

平成16年度と大きな違いはなく、「知らない」が8割以上を占めている。(図7-1-1)

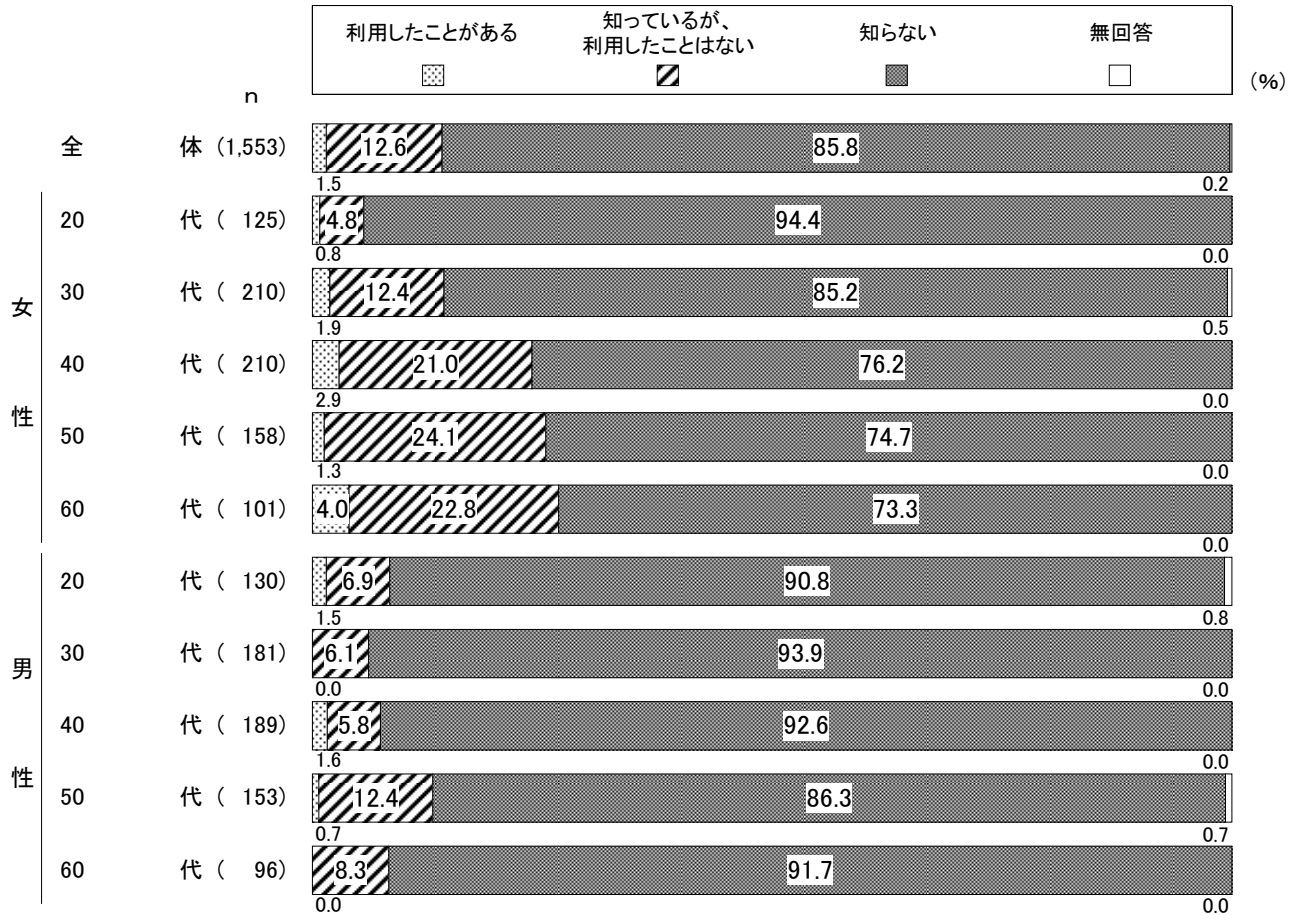
【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っているが、利用したことはない」は女性の40代以降で比較的高く、特に50代では24.1%となっている。

男性では、「知らない」が年代にかかわらず9割前後と圧倒的に多くなっている。

(図7-1-2)

図7-1-2 “らぷらす”の認知(性・年代別)



7-2 “らぷらす”を中心とした区の事業展開について

◎女性からの要望は「女性の就業支援」が多い。

問 25 区では男女共同参画を推進するために、『男女共同参画センター“らぷらす”』などを通じて以下のような事業展開をしています。この中で、特に重点的に行うべきだと思われる事業はどれでしょうか。(○は3つまで)

図7-2-1 “らぷらす”を中心とした区の事業展開について(全体・性別-平成21年度)

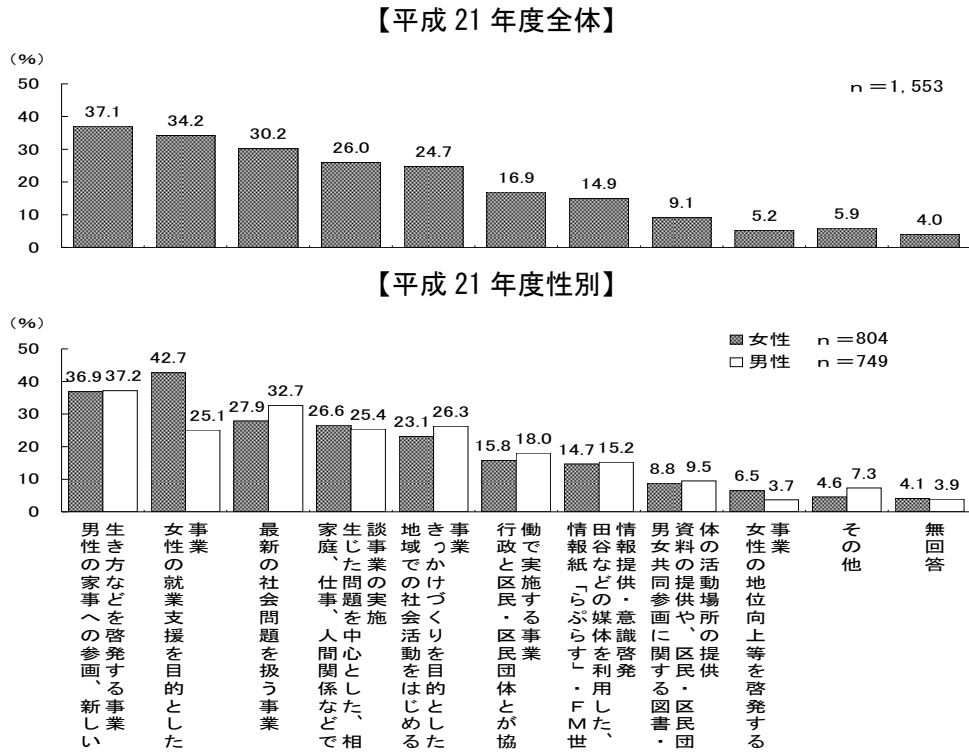
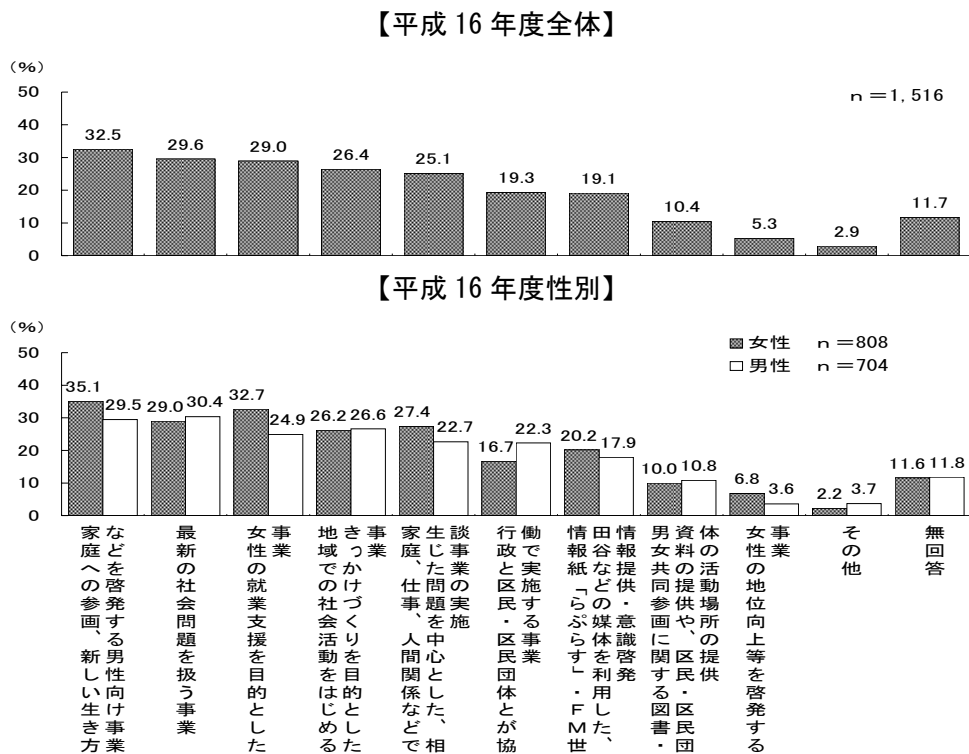


図7-2-2 “らぷらす”を中心とした区の事業展開について(全体・性別-平成16年度)



この“らぷらす”を中心とした区の事業展開として、今後重点的に行うべきものとしては、男性向けの家事・育児セミナーなどの「男性の家事への参画、新しい生き方などを啓発する事業」(37.1%)、就職セミナーなどの「女性の就業支援を目的とした事業」(34.2%)、ストーカー・DV防止などの「最新の社会問題を扱う事業」(30.2%)、「家庭、仕事、人間関係などで生じた問題を中心とした、相談事業の実施」(26.0%)、「地域での社会活動をはじめるきっかけづくりを目的とした事業」(24.7%)などが多くあげられている。逆に少ないのは、「女性の地位向上等を啓発する事業」(5.2%)であり、より具体的な問題に対応した事業の充実を求める声が強くなっている。(図7-2-1)

【性別】

性別で見ると、「女性の就業支援を目的とした事業」は女性で42.7%（男性25.1%）と特に多くなっている。一方、男性からは、「最新の社会問題を扱う事業」が32.7%と女性（27.9%）を上回っている。(図7-2-1)

【過年度比較】

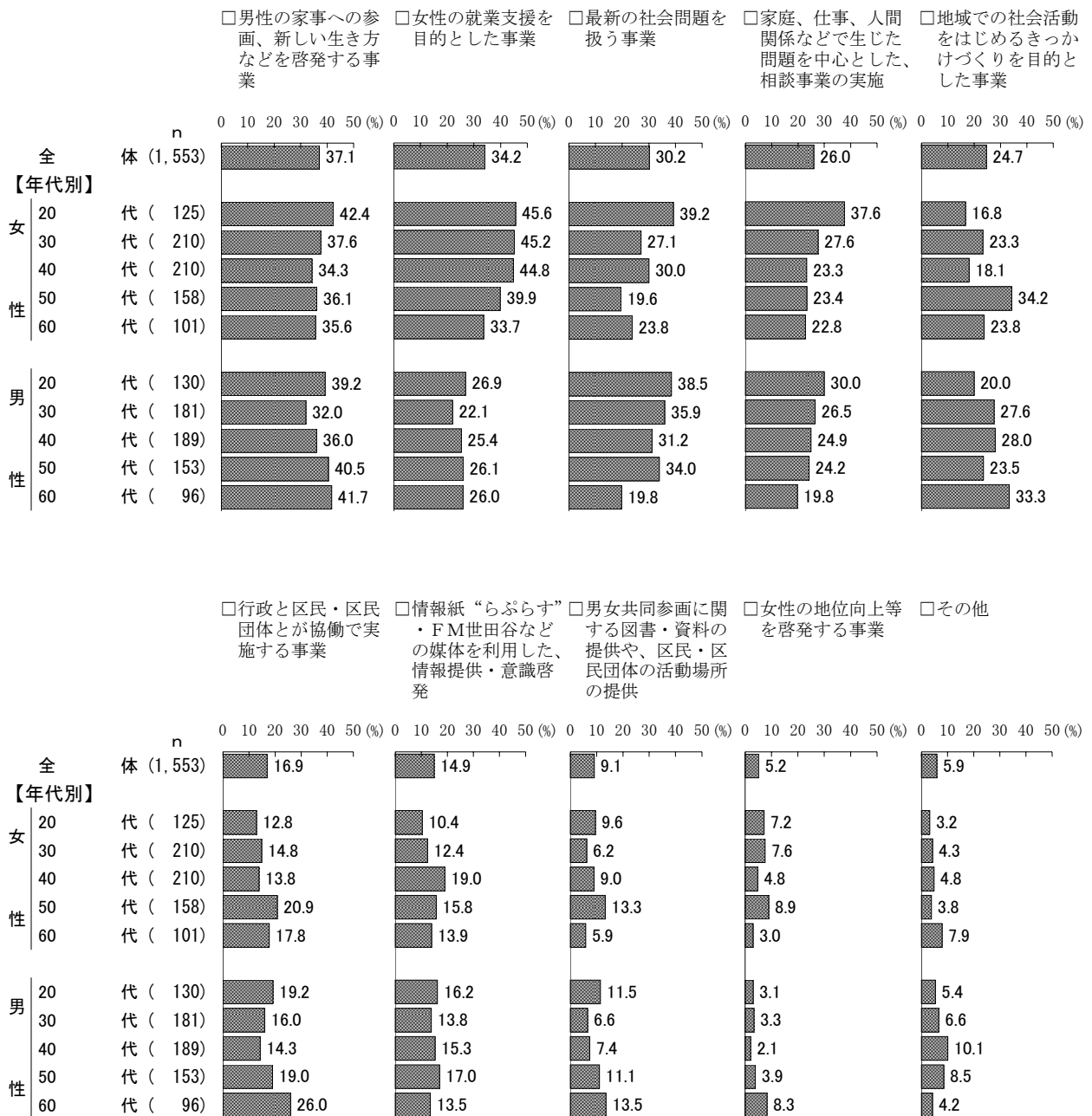
女性では「女性の就業支援を目的とした事業」が平成16年度32.7%から42.7%と増加している。(図7-2-2)

【性・年代別】

女性で多かった「女性の就業支援」への要望は、特に20代から40代で強く望まれている。この他、若年層では「最新の社会問題」や「家庭、仕事、人間関係の相談事業の実施」への要望が多い。また、「社会活動のきっかけづくり」は50代で3割台となっている。

男性では、若年層では「最新の社会問題」や「家庭、仕事、人間関係の相談事業の実施」への要望が多く、60代では「社会活動のきっかけづくり」とともに、「行政と区民・区民団体とが協働で実施する事業」が多くなっている。(図7-2-3)

図7-2-3 “らぷらす”を中心とした区の事業展開について(性・年代別)



第8章 男女平等観

8-1 男女平等観

◎職場、社会参加の場で大きい男女の認識の違い、「全体として」は5割が不平等と認識。

問 26 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。
 (ア)～(オ)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

図8-1-1 男女平等観（全体）

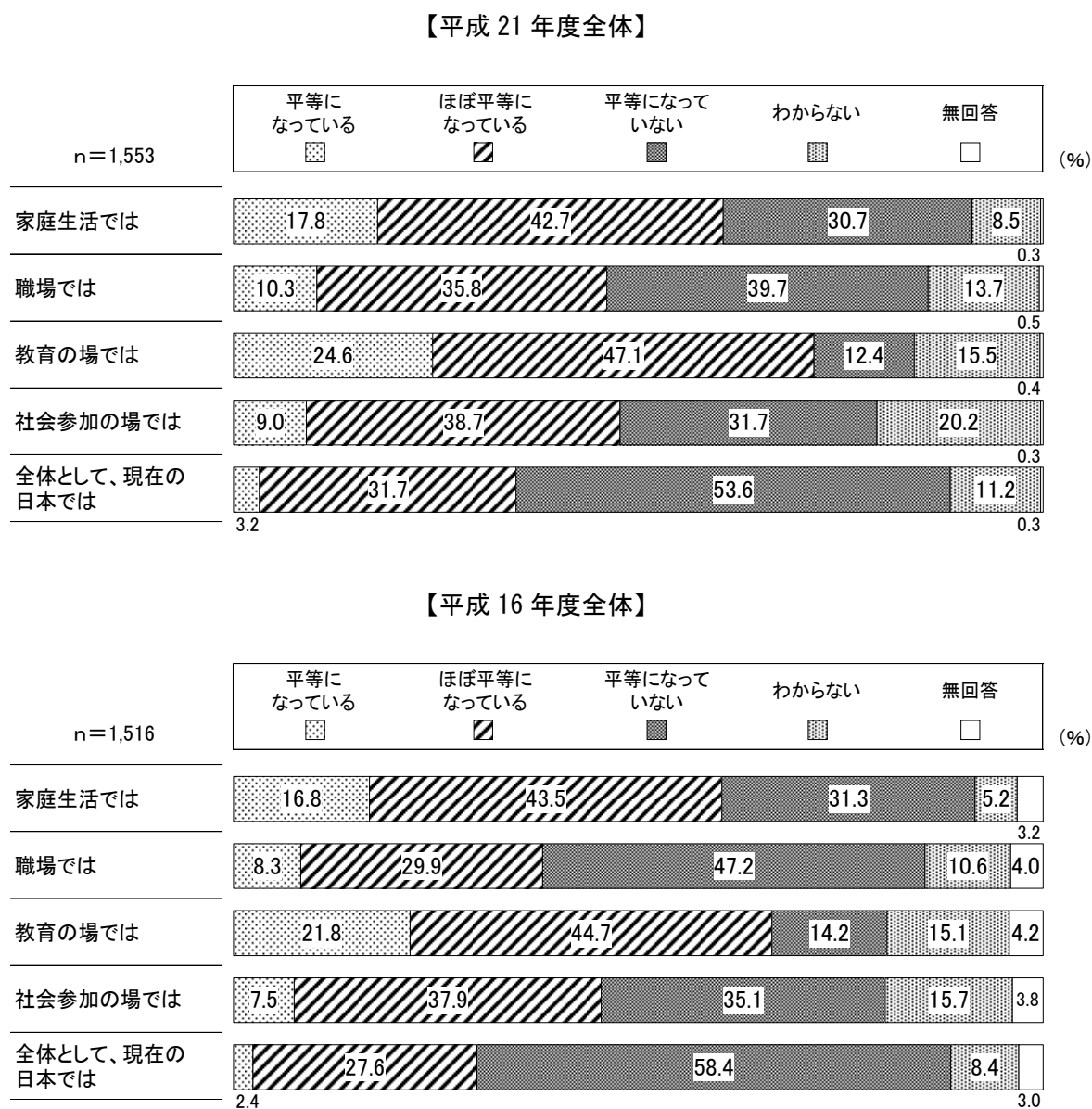
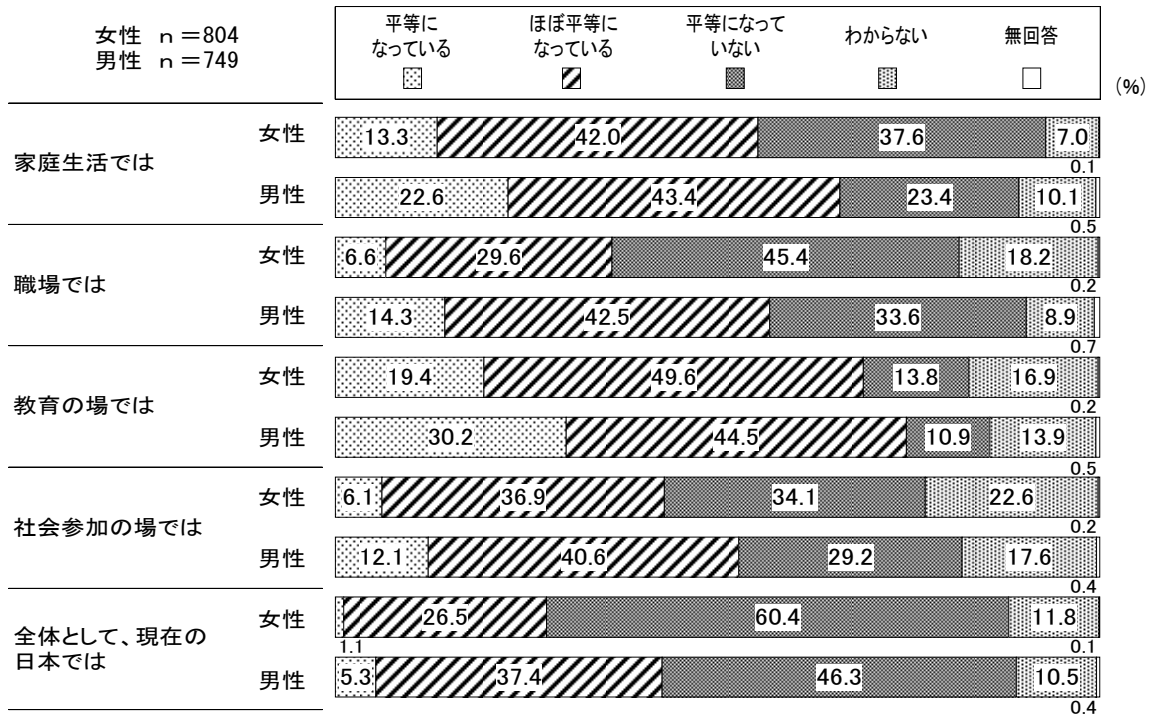
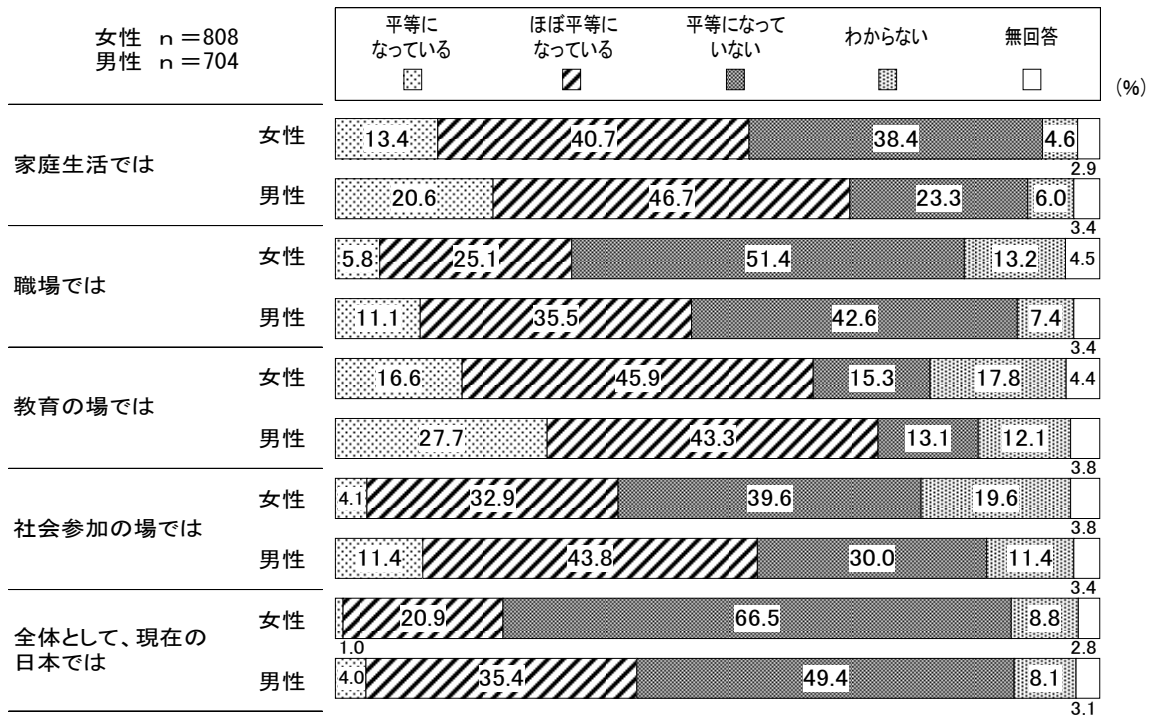


図8-1-2 男女平等観（性別）

【平成21年度性別】



【平成16年度全体】



社会の各分野における男女平等の状況を評価してもらった。

「平等になっている」と「ほぼ平等になっている」の《平等評価》の高い順に整理すると、【教育の場】が71.7%と最も高く、【家庭生活】が60.5%と続いている。一方、【社会参加の場】が47.7%、【職場】が46.1%にとどまっている。

【社会全体として、現在の日本】においては、《平等評価》の34.9%に対して、《不平等評価》が53.6%と圧倒的に多く、個別項目以上に不平等観が多くなっている。(図8-1-1)

【性別】

性別でみると、いずれの項目においても《平等評価》は男性でより多く、男女の意識の違いがみうけられる。また、各項目については以下のような特徴が現れている。(図8-1-2)

◎【教育の場】と【家庭生活】については、男女双方からの《平等評価》が高い

【教育の場】は女性では69.0%、男性では74.7%、【家庭生活】については、女性では55.3%、男性では66.0%と、いずれも平等評価が半数を超えており、他の分野に比べて男女双方から平等の評価が高い。しかしながら男女の認識の差に注目した時その開きは大きく、女性からより厳しい評価が下されている。

◎【社会参加の場】と【職場】については、男女で意見の相違が大きい

【社会参加の場】については、《平等評価》は女性では43.0%、男性では52.7%、【職場】については、女性では36.2%、男性では56.8%と男女の認識の差が大きくなっている。

◎【全体として、現在の日本】については、女性からの評価がとりわけ厳しい

女性の《平等評価》は27.6%に過ぎず、60.4%と圧倒的多数が《不平等評価》となっている。男性においても《平等評価》は42.7%にとどまり、《不平等評価》が46.3%を占めている。男女ともに《不平等評価》が多いが、女性からはとりわけ厳しい評価が示されている。

【過年度比較】

各分野で《平等評価》の増加がみられ、特に【職場】と【教育の場】で大きく増加している。しかしながら、依然として【職場】、【教育の場】で男女の認識の違いが生じている。

(図8-1-1、図8-1-2)

【性・年代別】

各分野への評価の性・年代別の結果から、特徴的な点に絞ってまとめると次のようになる。

- ①【家庭生活の場】については、女性の20代から40代では《不平等評価》が比較的多く、他の年代の《平等評価》とは一線を画している。また、男性の50代と60代では《平等評価》が7割を超えている。
- ②【職場】については、女性では各年代で《不平等評価》が多く、男性では20代で《不平等評価》が多いが、30代以降は《平等評価》が5割を超えている。
- ③【教育の場】については、男女とも各年代で《平等評価》が多く、評価が一貫している。
- ④【社会参加の場】については、女性40代で《不平等評価》が4割近くと多くなっている。
- ⑤【社会全体】については、女性の場合いずれの年代でも《不平等評価》が多数を占め、40代では7割近くと特に多い。一方、男性では20代で《不平等評価》が多いが、30代以降では《平等評価》の占める割合が増え、《不平等評価》と並んでいる。

(図8-1-3～図8-1-7)

図8-1-3 男女平等観【家庭生活では】(性・年代別)

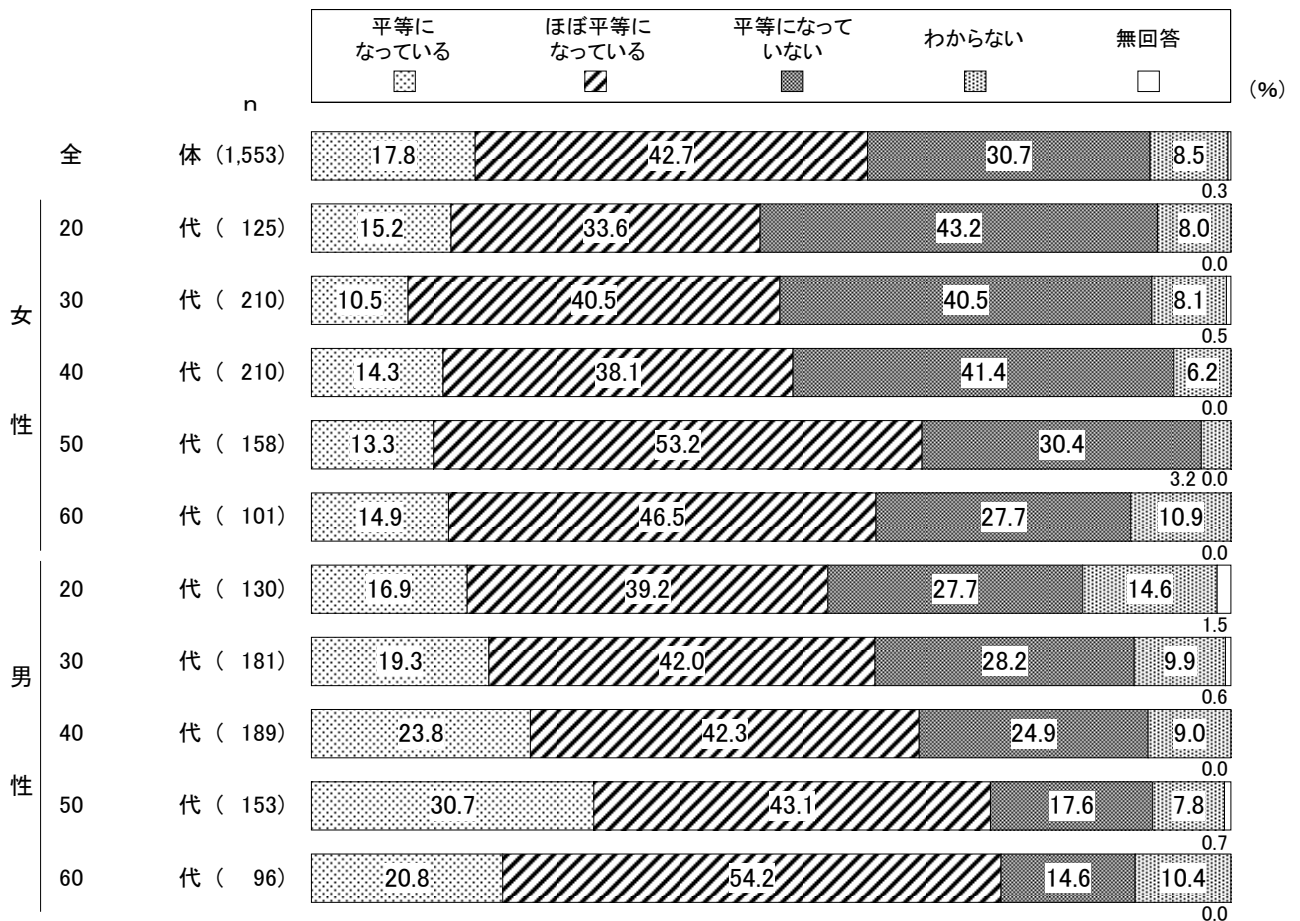


図8-1-4 男女平等観【職場では】(性・年代別)

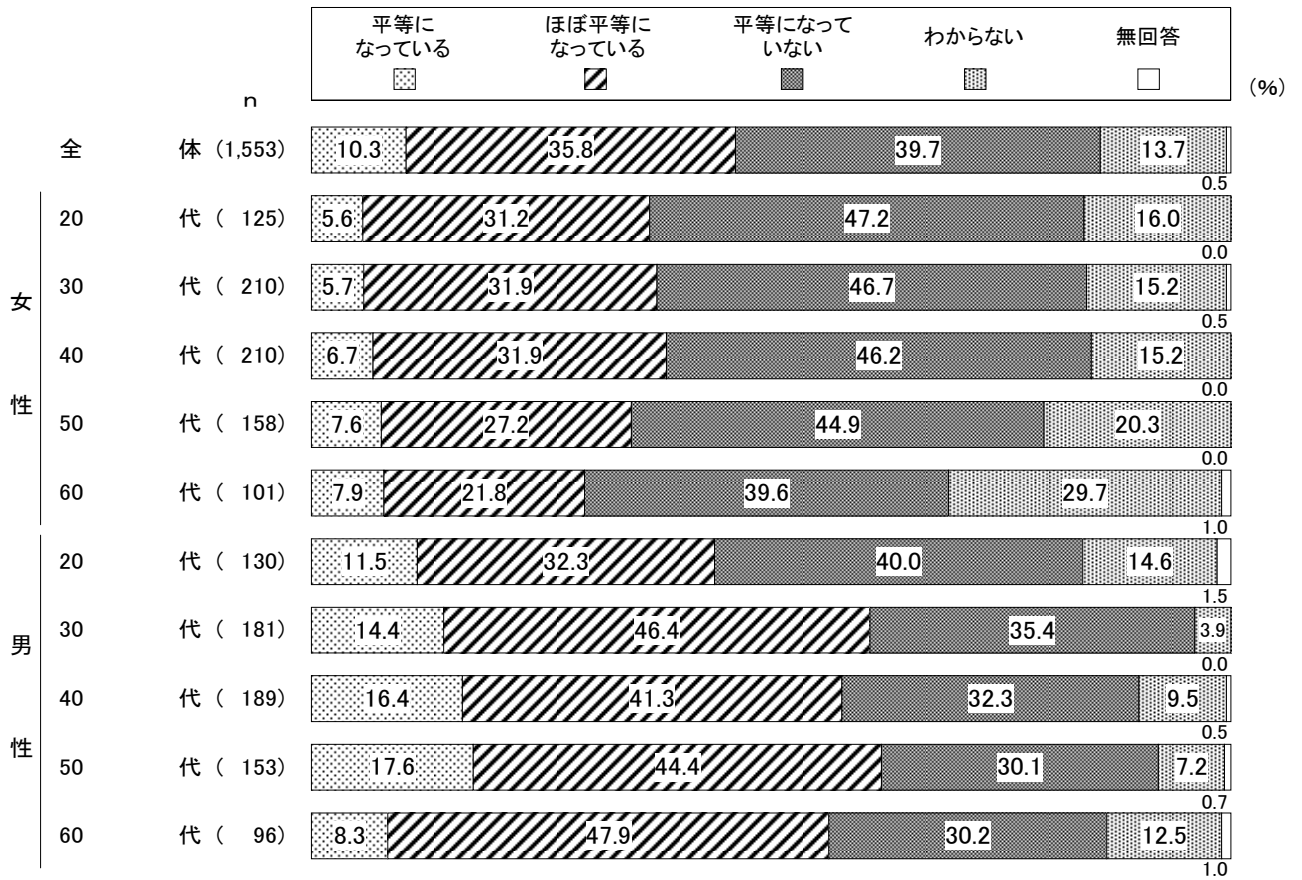


図8-1-5 男女平等観【教育の場では】(性・年代別)

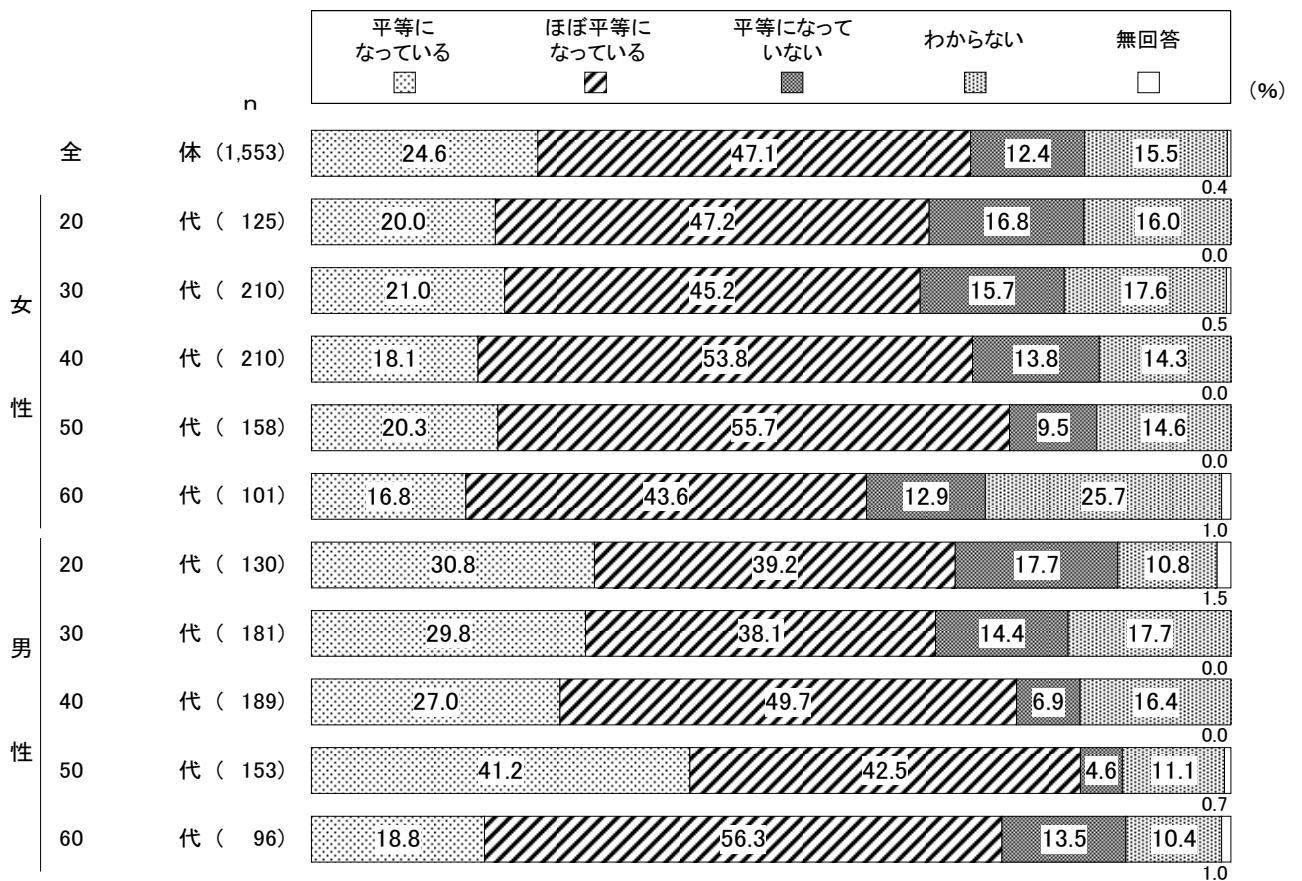


図8-1-6 男女平等観【社会参加の場では】(性・年代別)

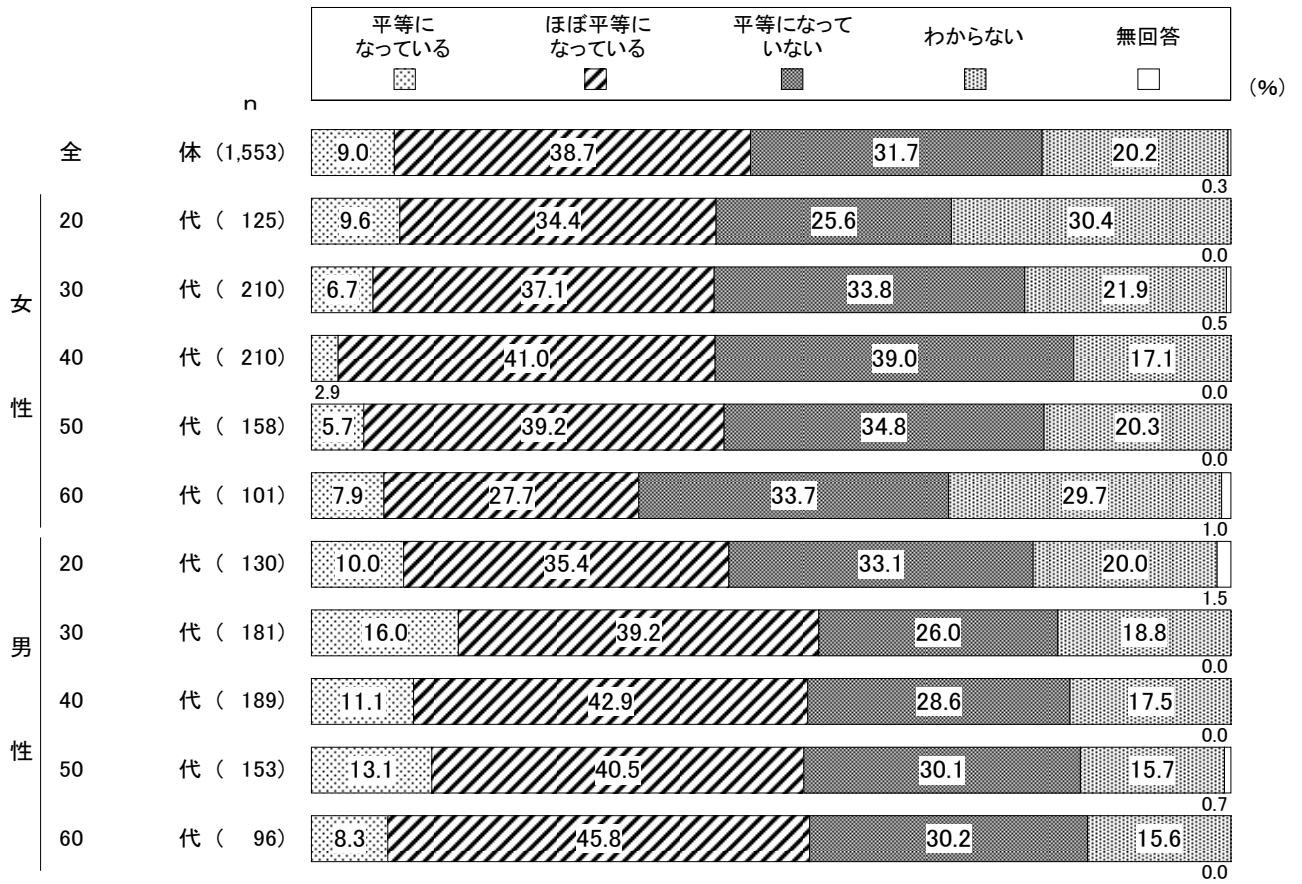
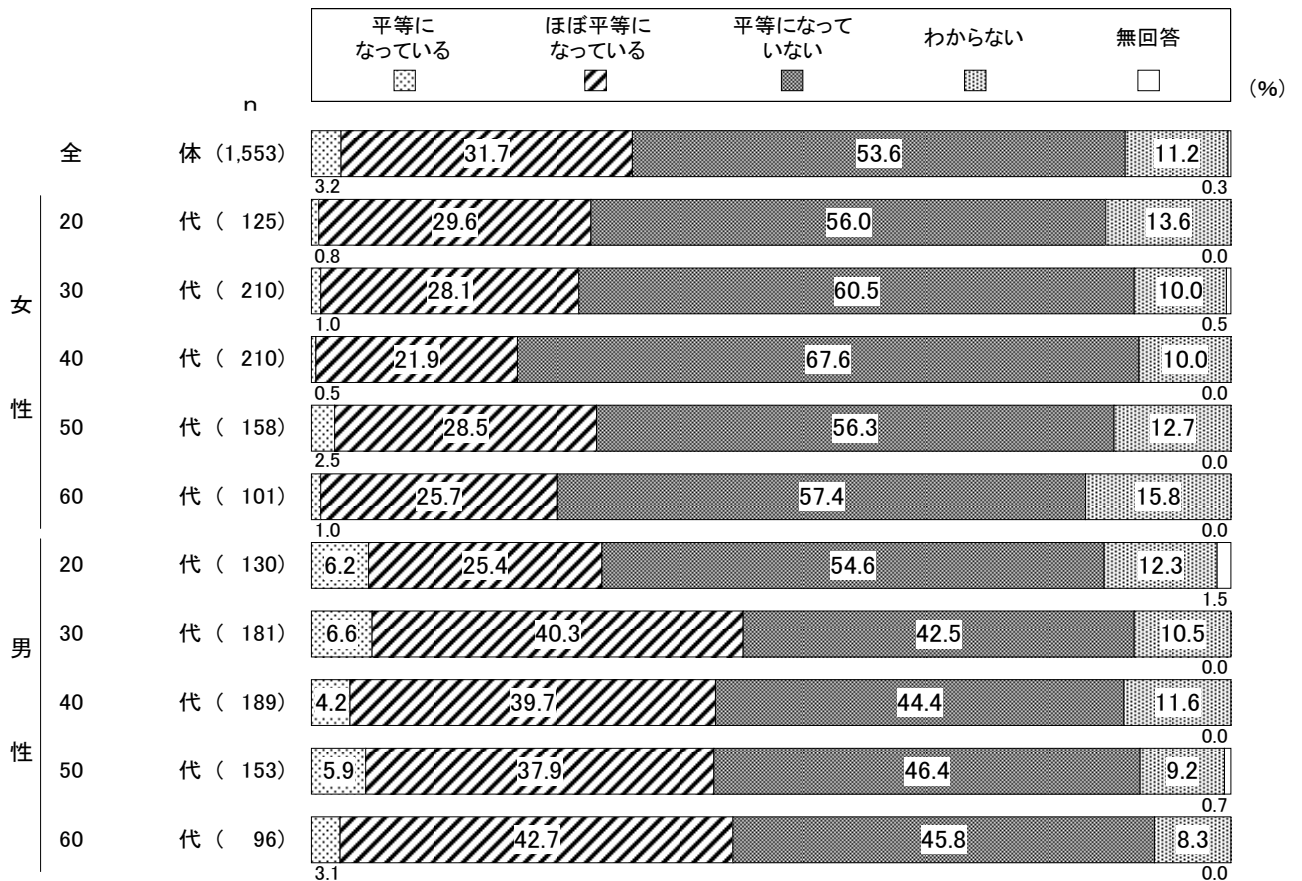


図8-1-7 男女平等観【全体として】(性・年代別)

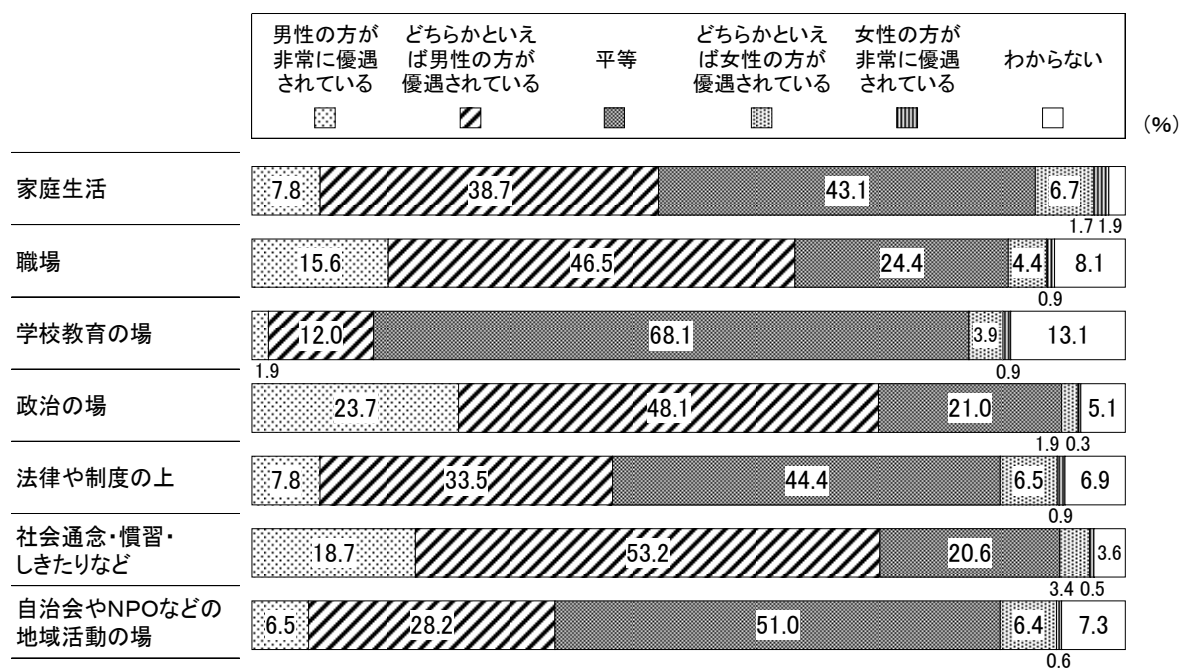


【参考 全国調査では】

平成19年実施の「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）では、《平等》という評価は【学校教育の場】68.1%、【自治会やNPOなどの地域活動の場】51.0%、【法律や制度の上】44.4%、【家庭生活】43.1%などの順となっている。

形式も違うので直接の比較は難しいが、【教育】と【家庭】においては比較的平等評価が高く、【職場】に関しては不平等観のほうが高いという傾向は、今回の結果とも通じるものがある。（図8-1-8）

図8-1-8 男女平等観（内閣府）



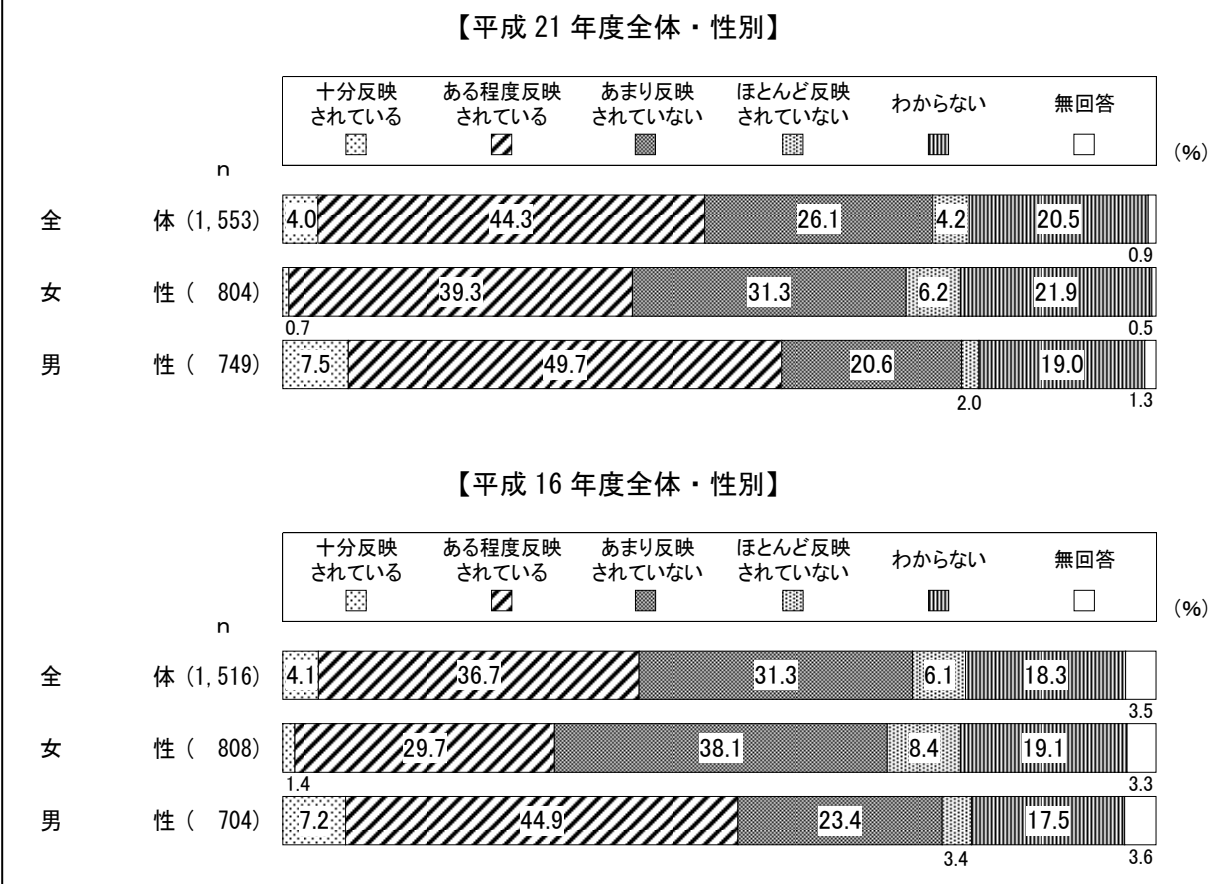
8-2 行政への女性意見の反映

(1) 行政への女性意見の反映度

◎《反映されている》は5割近く。

問27 あなたは、女性の意見が行政にどの程度反映されていると思いますか。
(○は1つだけ)

図8-2-1 行政への女性意見の反映度（全体・性別）



行政においてどの程度女性の意見が反映されているかをたずねたところ、「十分に反映されている」は4.0%、「ある程度反映されている」は44.3%となり、両者を合わせた《反映されている》は48.3%であった。これに対して「あまり反映されていない」(26.1%)、「ほとんど反映されていない」(4.2%)を合わせた《反映されていない》は30.3%となり、女性意見の反映については《反映されている》が上回る結果となった。(図8-2-1)

【性別】

女性では《反映されていない》が37.5%となり、《反映されている》の40.0%と二分されている。一方男性では逆に、《反映されている》が57.2%と過半数を超え、《反映されていない》の22.6%を大きく上回っており、男女の意見の違いが顕著である。(図8-2-1)

【過年度比較】

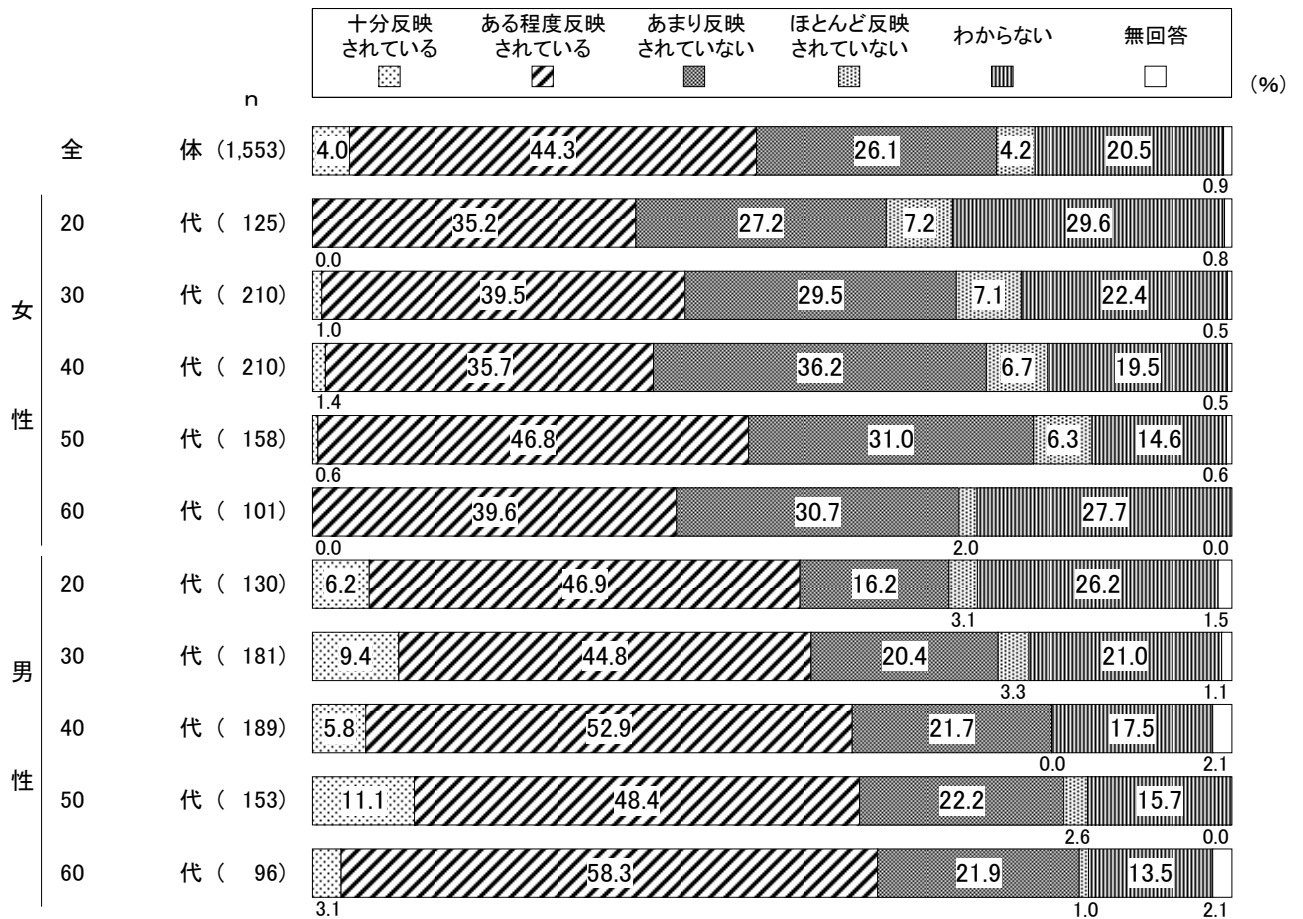
《反映されている》は平成16年度40.8%から48.3%と増加しており、特に女性では31.1%から40.0%と増加し、《反映されていない》を上回る結果となった。(図8-2-1)

【性・年代別】

女性では50代で5割近くが《反映されている》と考えている。

男性では《反映されている》は20代の53.1%から60代の61.4%へと年代が上がるにつれて上昇している。(図8-2-2)

図8-2-2 行政への女性意見の反映度（性・年代別）



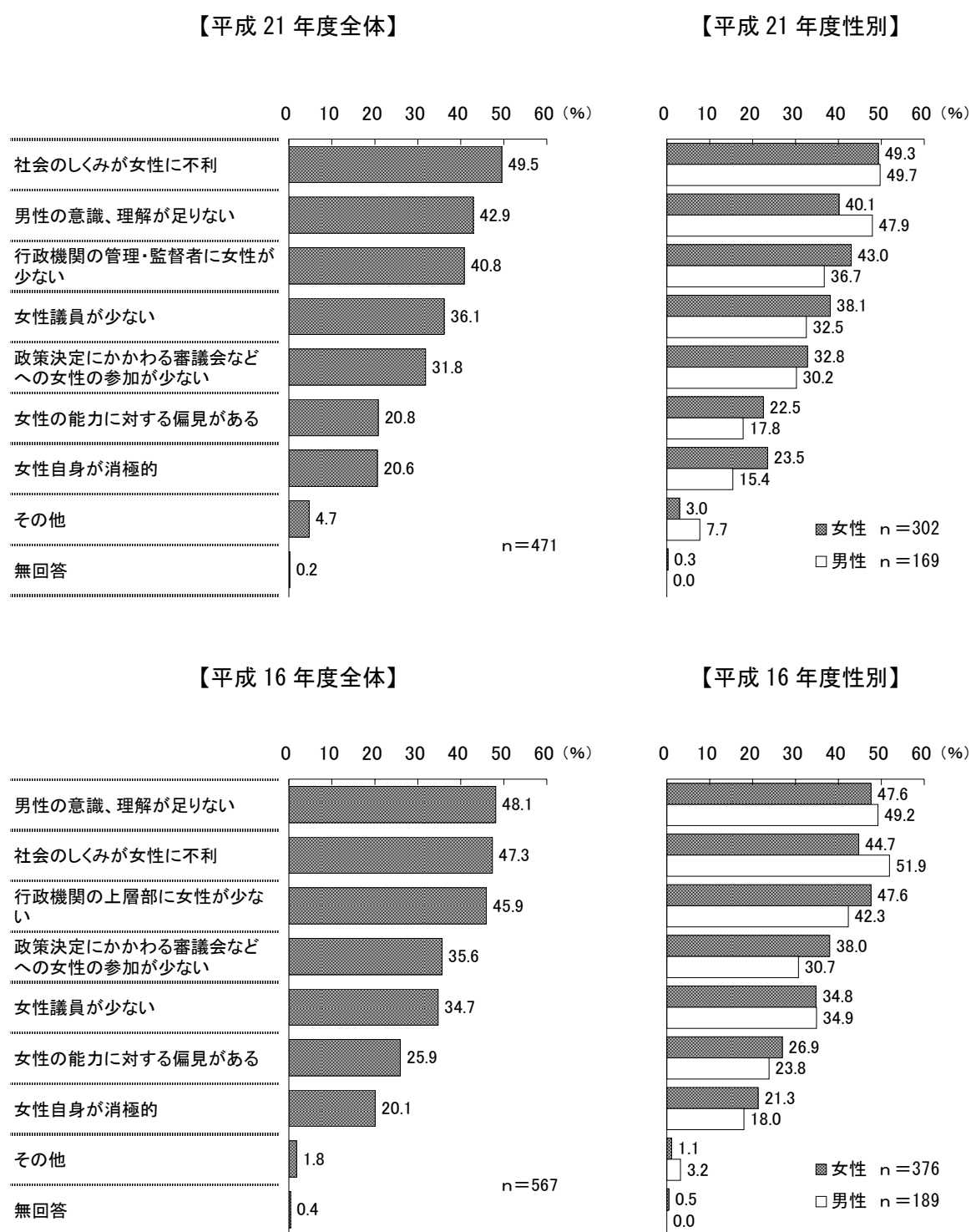
(2) 女性の意見が反映されていない理由

◎「社会のしくみが女性に不利」が49.5%で最も多い。

(問27で「3」か「4」とお答えの方に)

問27-1 反映されていない理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)

図8-3-1 女性の意見が反映されていない理由(全体・性別)



《反映されていない》と答えた人にその理由をたずねたところ、「社会のしくみが女性に不利」(49.5%)、「男性の意識、理解が足りない」(42.9%)、「行政機関の管理・監督者に女性が少ない」(40.8%)が4割台と多くなっている。(図8-3-1)

【性別】

性別で見ると、「行政機関の管理・監督者に女性が少ない」は男性(36.7%)よりも女性(43.0%)で多く、「男性の意識、理解が足りない」は女性(40.1%)よりも男性(47.9%)で多くなっている。(図8-3-1)

【過年度比較】

女性では「社会のしくみが女性に不利」と「女性議員が少ない」で増加している。

男性では「男性の意識、理解が足りない」が平成16年度47.6%から40.1%と減少している。

(図8-3-1)